JVC KENWOOD

JVCケンウッド　決算説明会

2013年（平成25年）3月期　第1四半期

株式会社JVCケンウッド

2012年8月2日

Copyright © 2012 JVC KENWOOD Corporation.　All rights reserved.

JVC KENWOOD Corporation

JVC KENWOOD

【資料中の略語】

CE　：カーエレクトロニクス（事業）

PS　：業務用システム（事業）

　　COM：無線機器（事業）

　　BS　：ビジネスソリューション（事業）

HM　：ホーム＆モバイルエレクトロニクス（事業）

　　音響　：音響機器（事業）

　　映像　：映像機器（事業）

SE　：エンタテインメント（事業）

JVC KENWOOD

2013年3月期 第1四半期決算概況

取締役 兼 CFO　藤田　聡

Copyright © 2012 JVC KENWOOD Corporation.　All rights reserved.

2013年3月期　第1四半期決算　サマリー

JVC KENWOOD

＊CE、COMは国内、北米を中心に堅調に推移

＊売上高は、円高、欧州経済悪化などの影響により減収

＊損益は、タイ洪水による一時的なコスト増により減益

＊財務面は、前期末比で有利子負債の減少、長期借入金比率の上昇など、健全性がさらに高まった

（億円）

		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	為　替
1Q	’13/3期	731	20	16	9	USドル：約 80 円 ユーロ ：約 103 円
	’12/3期	772	30	27	15	USドル：約 82 円 ユーロ ：約 117 円
	前期比	-41	-10	-11	-7	

2013年3月期　第1四半期決算　連結売上高

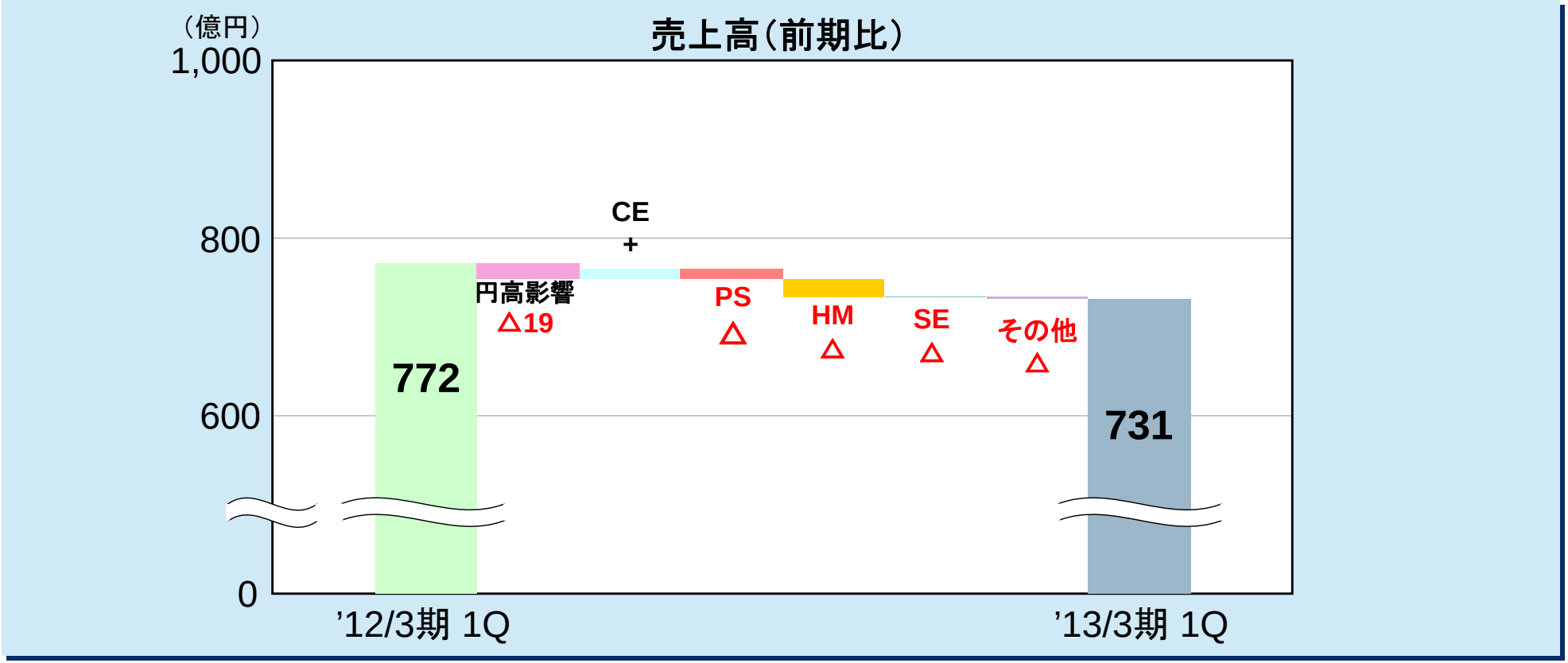
JVC KENWOOD

1Q実績：731億円　（前期比5.3%減収）

＊円高影響、HMを中心とした欧州経済悪化の影響により減収

＊CEは、OEMと国内市販が堅調に推移し、円高の影響を吸収して増収

＊COMは、北米向け業務用無線機器を中心に好調持続、現地通貨ベースでは増収



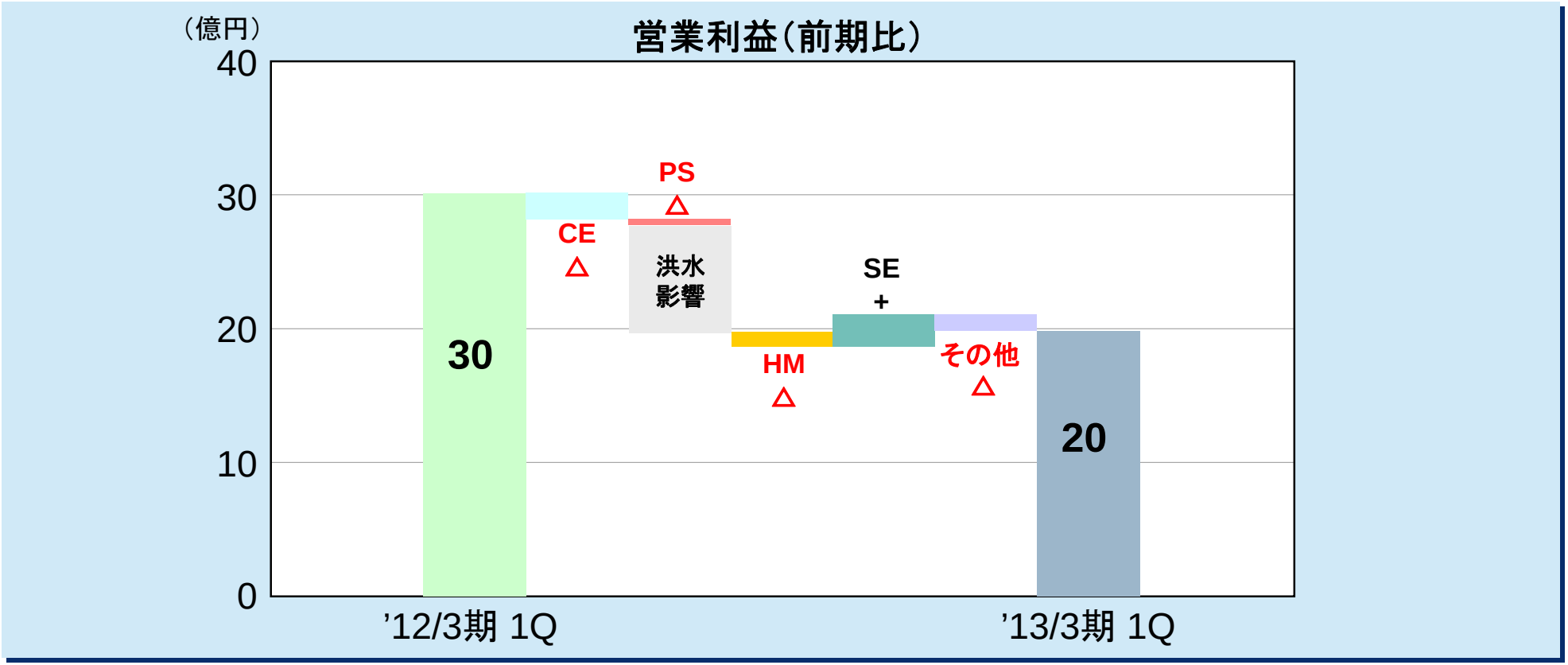
2013年3月期　第1四半期決算　連結営業利益

JVC KENWOOD

1Q実績：20億円　（前期比34.2%減益）

＊タイ洪水によるBSの一時的なコスト増（△8億円）などにより減益

＊対ユーロを中心とした円高影響（△11億円）、特許料収入減、
人件費増は、CE、COMの収益力強化、SEの増益、HMの黒字定着で
吸収し、想定以上の水準



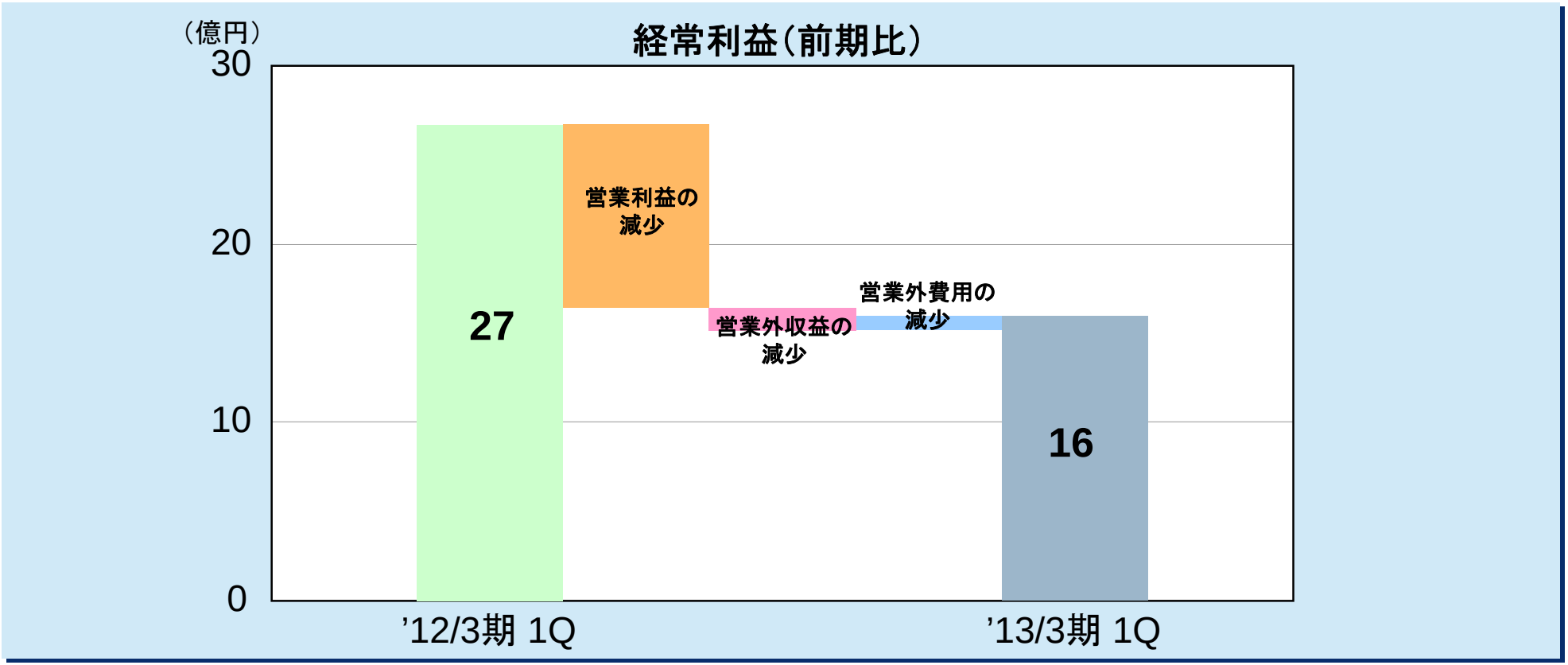
2013年3月期　第1四半期決算　連結経常利益

JVC KENWOOD

1Q実績：16億円 （前期比40%減益）

＊営業利益の減少により減益

＊為替差益や受取配当金が減少したものの、
シンワの持分法による投資利益を計上したことなどから、
営業外収支は前期並み



2013年3月期　第1四半期決算　連結四半期純利益

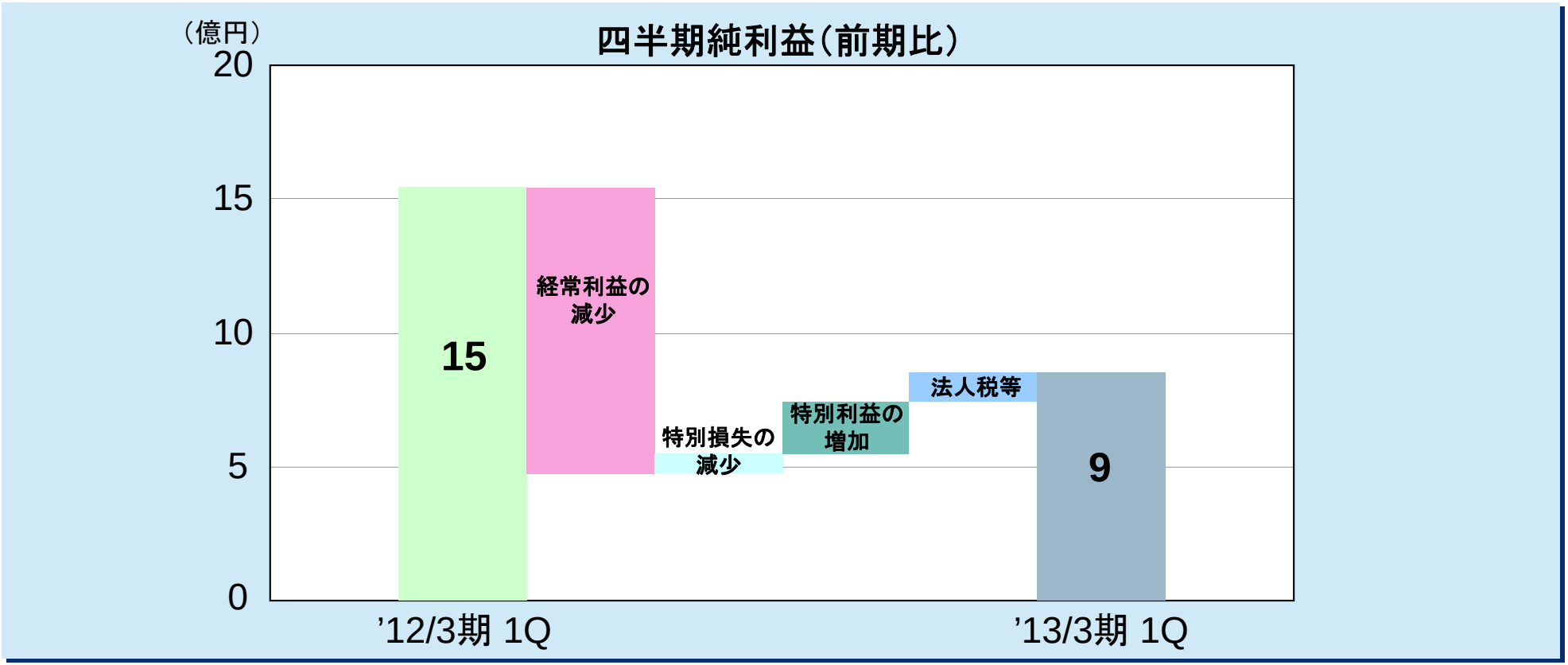
JVC KENWOOD

1Q実績：9億円　（前期比44.8%減益）

＊経常利益の減少により減益

＊固定資産売却益の増加、タイ洪水にともなう保険収入により、特別損益は前期比3億円改善

＊法人税等は前期比2億円減



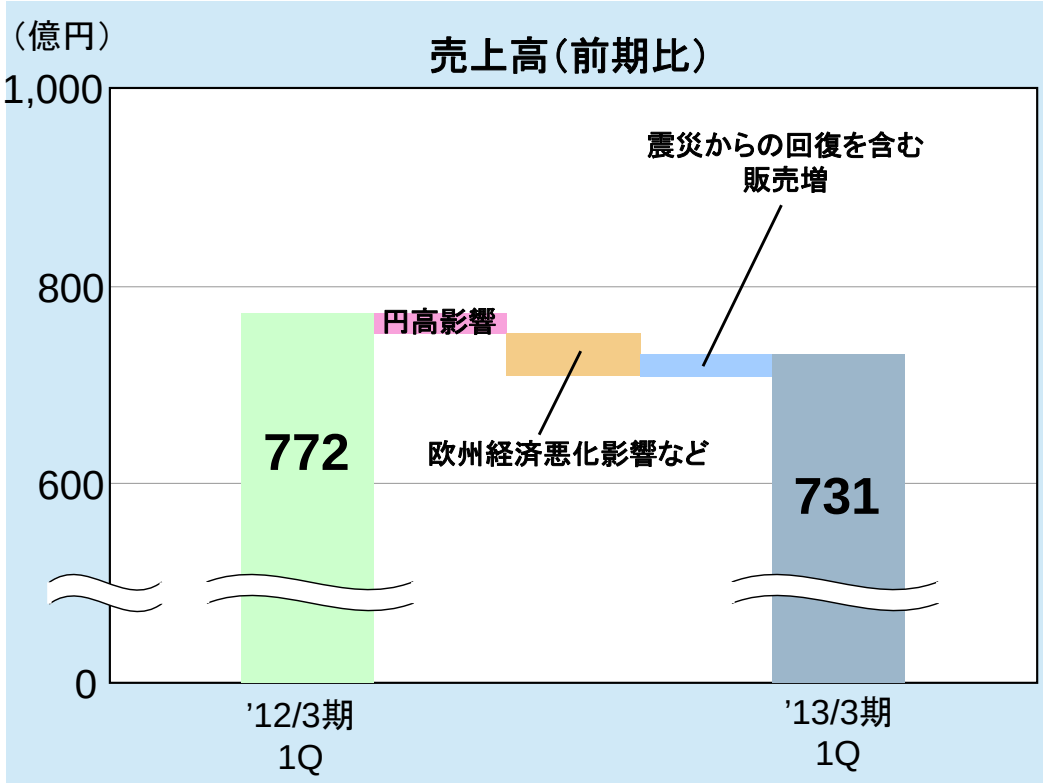
2013年3月期　第1四半期決算　増減分析（前期比）

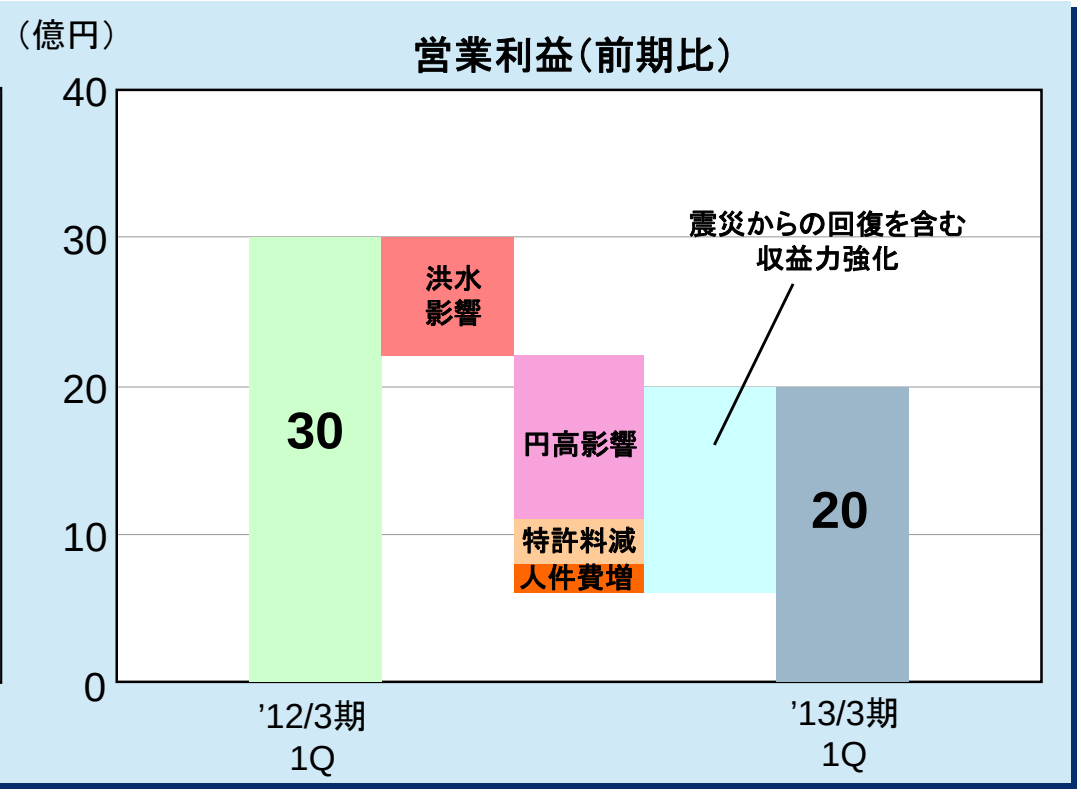
JVC KENWOOD

＊前期比で米ドル2.4%、ユーロ12.0%の円高が減収要因

＊タイ洪水による一時的なコスト増（△8億円）が減益要因

＊対ユーロを中心とした円高影響（△11億円）、特許料収入減、
人件費増は、震災からの回復、中期経営計画の取り組みを背景とした
各事業の収益力強化で吸収





JVC KENWOOD

セグメント別情報

セグメント別売上高および損益　サマリー

JVC KENWOOD

CE:　OEMと国内市販が堅調持続で増収、減益を最小化（円高影響を除けば増益）

PS:　COMが好調持続（現地通貨ベースでは増収増益）も、BSのタイ洪水影響などにより減収減益

HM:　減収ながら、収益力強化により黒字持続（円高影響を除けば増益）

SE:　ソフトの好調とコスト削減効果により増益

（百万円）

セグメント		第1四半期			通期
		'13/3期	'12/3期	前期比	'12/3期
カーエレクトロニクス	売上高	27,062	26,600	＋462	107,281
（CE）	営業利益	1,545	1,745	△ 200	6,346
業務用システム	売上高	20,015	21,563	△ 1,548	93,527
（PS）	営業利益	-329	517	△ 846	3,093
ホーム＆モバイルエレクトロニクス	売上高	16,142	18,701	△ 2,559	77,545
（HM）	営業利益	78	186	△ 108	1,730
エンタテインメント	売上高	8,917	8,993	△ 76	36,735
（SE）	営業利益	701	462	＋239	1,212
その他	売上高	986	1,335	△ 349	5,778
	営業利益	-9	107	△ 116	429
合計	売上高	73,124	77,194	△ 4,070	320,868
	営業利益	1,987	3,019	△ 1,032	12,813

2013年3月期　第1四半期決算　カーエレクトロニクス事業

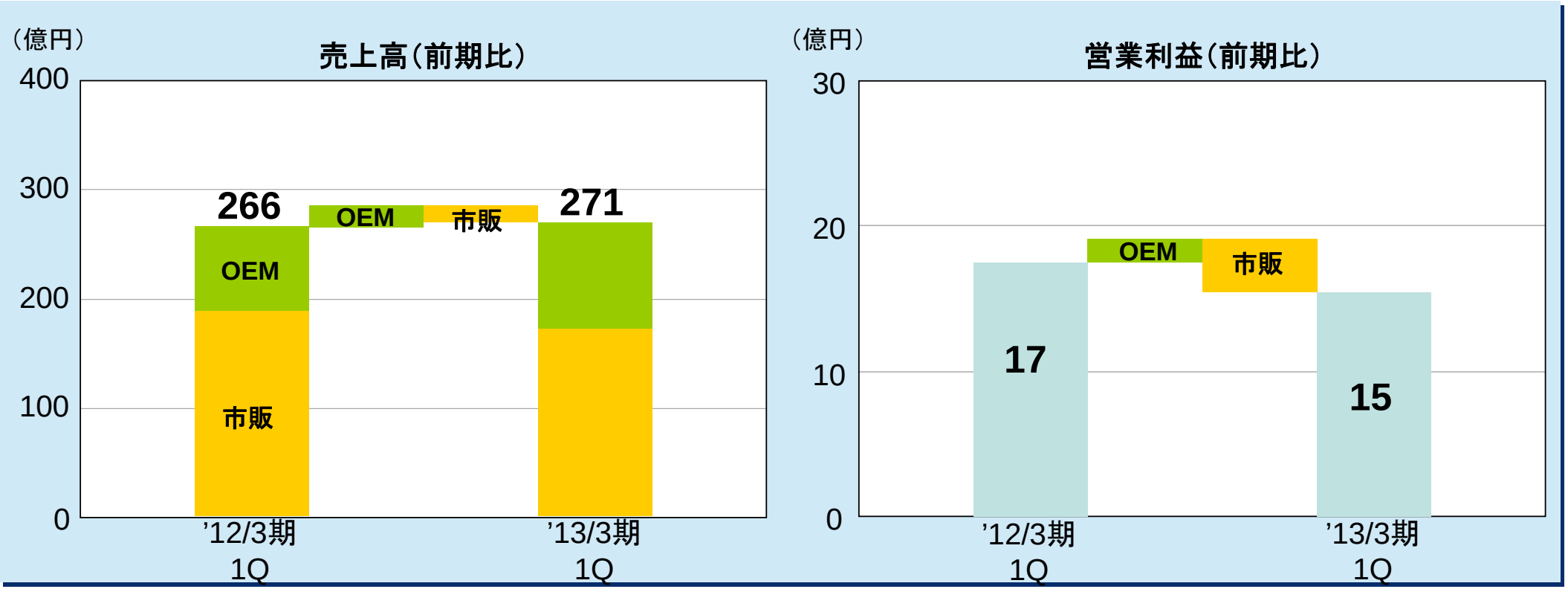
JVC KENWOOD

売上高：271億円（+1.7%）　営業利益：15億円（△2億円）

OEMと国内市販が堅調持続で増収、減益を最小化（円高影響を除けば増益）

市販：欧米では高シェア持続、国内では「彩速ナビ」の販売堅調でシェアアップ
→現地通貨ベースでは増収、減益を最小化

OEM：前2QからのDOPナビ、CD／DVDメカの出荷が堅調持続→増収増益



2013年3月期　第1四半期決算　業務用システム事業

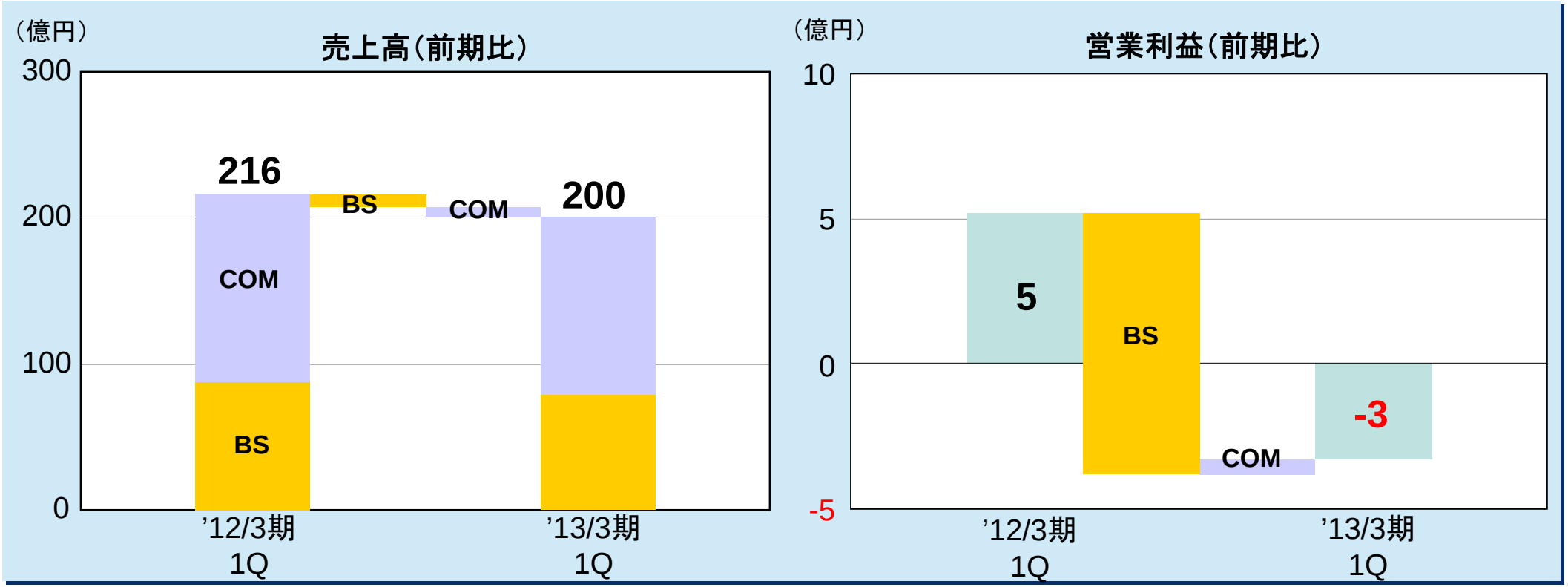
JVC KENWOOD

売上高：200億円（△7.2%）　営業利益：-3億円（△8億円）

COMが好調持続も、BSのタイ洪水影響などにより減収減益

COM：「NEXEDGE」が北米を中心に好調持続（現地通貨ベースでは増収増益）

BS：　海外販売の不振とタイ洪水影響で減収減益も、国内販売堅調、タイ工場正常化（6月～）→洪水影響を除けば前期並み利益水準



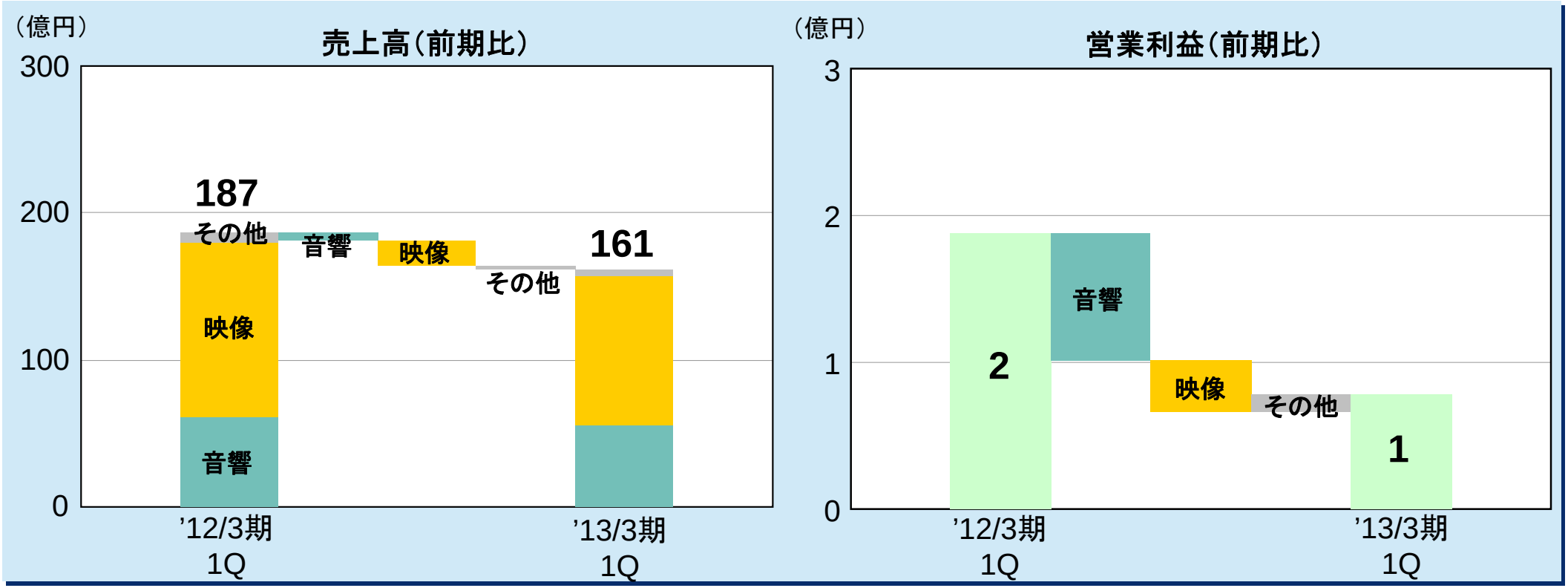
2013年3月期　第1四半期決算　ホーム＆モバイルエレクトロニクス事業

売上高：161億円（△13.7%）　営業利益：1億円（△1億円）

減収ながら、収益力強化により黒字持続（円高の影響を除けば増益）

音響：ホームオーディオは市場縮小の影響を受けたものの、AVアクセサリーは販売好調で高い収益性を持続

映像：プロジェクターが欧州経済悪化の影響を受けたものの、カムコーダーは国内中心に高付加価値機種の売上構成比アップで収益性改善



2013年3月期　第1四半期決算　エンタテインメント事業

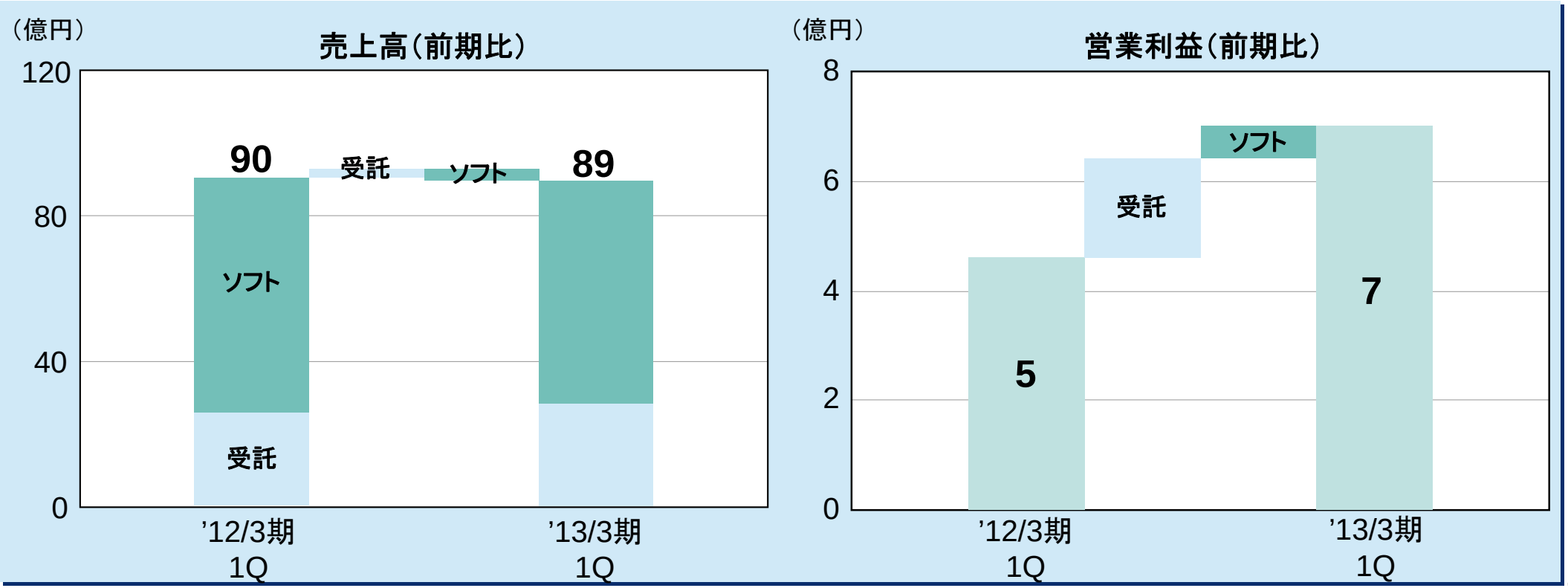
JVC KENWOOD

売上高：89億円（△0.8%）　営業利益：7億円（+2億円）

ソフトの好調とコスト削減効果により増益

ソフト：音楽関連でテレビ番組主題歌などのヒット作品を多数輩出、アニメ関連は好調持続、音楽権利収入も順調で収益拡大

受託：ヒット作品輩出で光ディスク生産堅調、コスト削減効果も現れ、損益改善



2013年3月期　第1四半期決算　財政状態

JVC KENWOOD

バランスシート

＊総資産は、受取手形及び売掛金の減少、現金及び預金の減少により、
前期末比161億円減

＊負債は、未払費用の減少、支払手形及び買掛金の減少により、前期末比125億円減
有利子負債は前期末比32億円減、長期借入比率上昇
ネットデットは前期末比48億円増

＊利益剰余金は前期末比2億円増、株主資本合計は前期末比2億円増
純資産合計は、主要通貨での円高の影響により、前期末比36億円減
自己資本比率は、前期末比で0.1%上昇し、23.0%

（億円）

	'12/3期末	'13/3期　1Q末	前期末増減
総資産	2,418	2,256	△161
有利子負債	924	891	△32
（うち長期借入金）	503	513	＋10
ネットデット	268	316	＋48
ネットD／Eレシオ（倍）	0.47	0.59	＋0.12
資本剰余金	459	459	±0
利益剰余金	242	244	＋2
純資産	571	535	△36
自己資本比率（%）	22.9	23.0	＋0.1

2013年3月期　第1四半期決算　財政状態

JVC KENWOOD

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー　29億円の資金増（前期比104億円収入増）

＊主要因は、前期の雇用構造改革費用の支出がなくなったこと、1Qの売上債権減少

投資活動によるキャッシュ・フロー　54億円の資金減（前期比38億円支出増）

＊主要因は、シンワの発行済株式の45%取得

財務活動によるキャッシュ・フロー　38億円の資金減（前期比34億円支出増）

＊主要因は、借入金の圧縮や配当金の支払い

当1Q末の現金及び現金同等物　575億円（前期比27億円増）

JVC KENWOOD

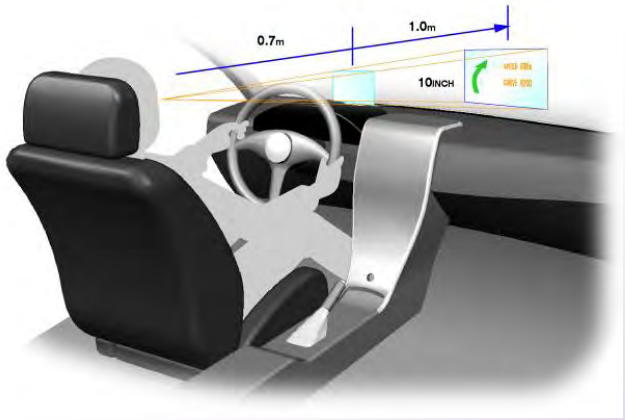
経営方針と2013年3月期の取り組み

代表取締役社長 兼 CEO　江口 祥一郎

Copyright © 2012 JVC KENWOOD Corporation.　All rights reserved.

1. 経営方針

経営方針







「利益ある成長」を加速するステージへ

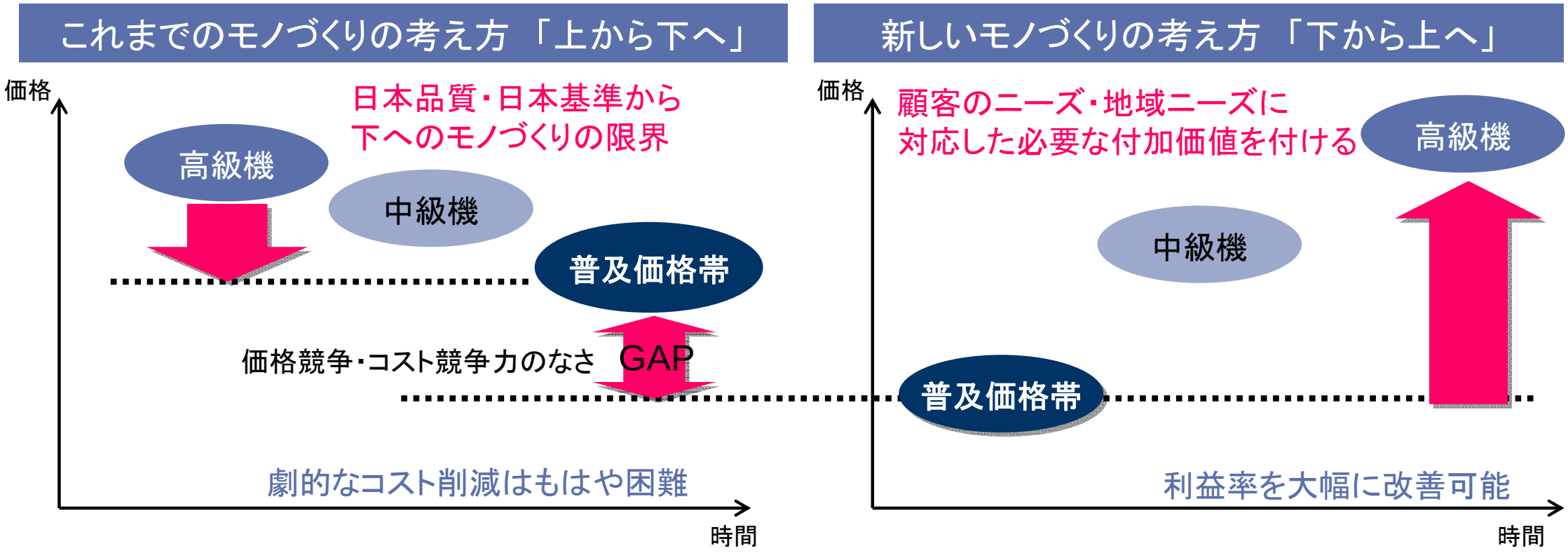




新しいモノづくりの潮流

- これまでの「上から下へ」（高級機からのダウングレード化）の考え方は、もはや限界に
- 「下から上へ」の逆転の発想で、思い切った価格の普及機からアップグレードする

新興国のボリュームゾーン獲得には、新しいモノづくりへのイノベーションが必要

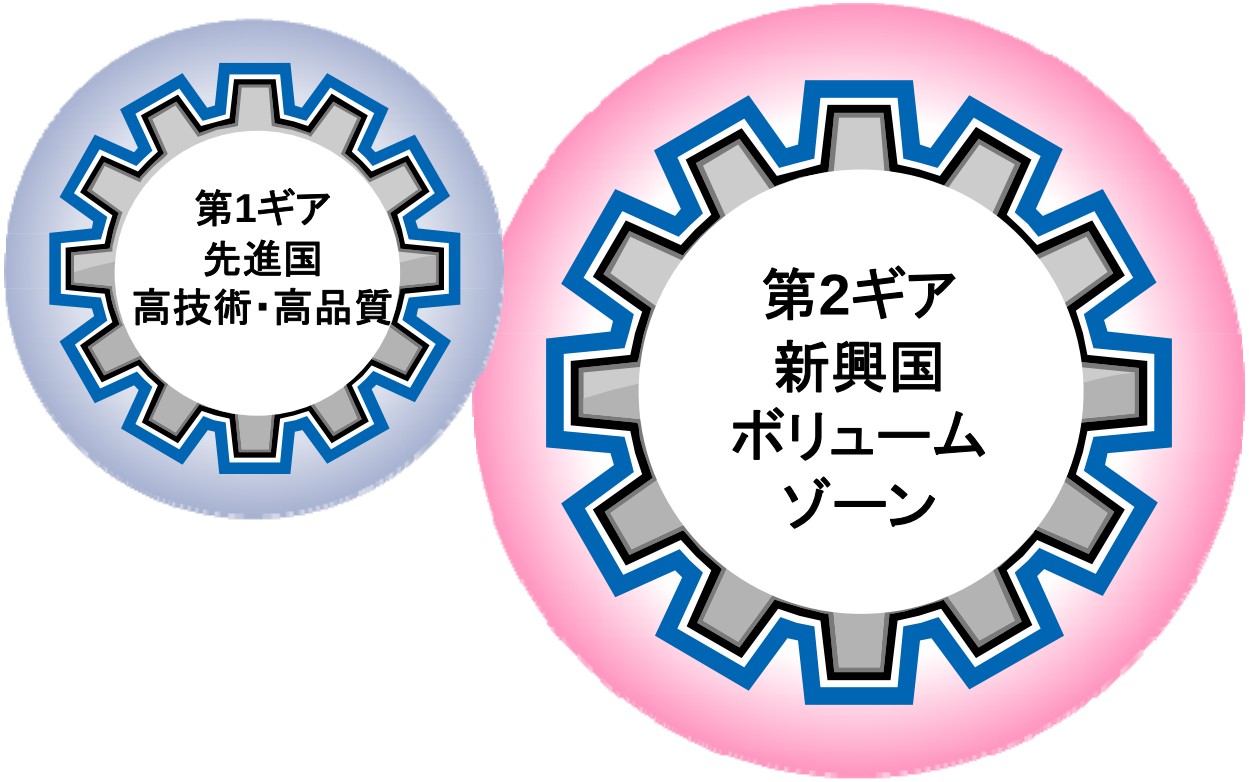


利益ある成長を目指して～成長市場へ立ち向かう

JVCKENWOOD

■ 新興国市場ボリュームゾーンにリソースを投入

- 新興国目線による新しいモノづくりへのイノベーションの実現
- 経営資源を思い切って新興国へシフト



利益ある成長を目指して～モノづくり企業から価値づくり企業へ

JVC KENWOOD

■「機能一辺倒」からユーザー主導の価値づくりへの転換

- 最新技術だけではなく、最適技術の組み合わせによって「快適な使い心地、感動的なデザイン」を実現する商品・サービスを追求



＜価値づくりが反映された商品の一例＞



「MirrorLink™」対応AVレシーバー



Wi-Fiカム



スポーツカム



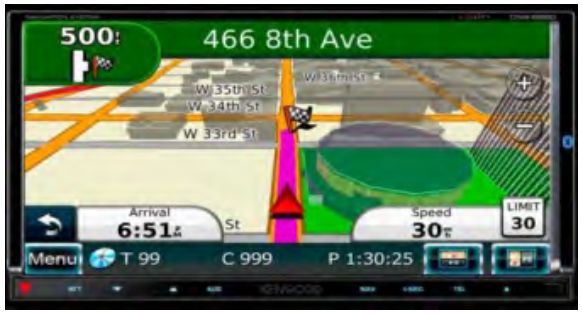
利益ある成長を目指して～完全自前主義から脱却した価値づくり

■ 独自性の高い商品・サービスの実現

- コア技術・領域のブラックボックス化を強化するとともに、他社との協業や提携、M&Aを含め、時間とコストを優先したフレキシブルな経営を推進

■ 新興国のモノづくりの獲得のために

- 新興国で成功している企業を学び、当社グループの価値づくりに活かす



ガーミンとの協業による
AV一体型カーナビ
（米国市場向け）



米・ボッシュ社、独・デルファイ社に
品質・コスト競争力が認められた
CD／DVDメカ



次世代の高速・高画質
画像処理エンジン
「FALCONBRID」



高画質映像デバイス
フルハイビジョン
D-ILA素子

利益ある成長を目指して～憧れのグローバルブランドづくり

JVC KENWOOD

■ ブランド認知度・価値の向上
- ブランド・宣伝への積極的な投資
- シンボリックな商品の連打を通じて
  ブランドロイヤリティ向上をはかる

■ 世界のお客様に憧れを抱いていただける
ブランドへ



コーポレートブランド

JVC KENWOOD

製品・事業ブランド

JVC　KENWOOD

VICTOR ENTERTAINMENT　TEICHIKU ENTERTAINMENT

ZETRON

JVC KENWOOD

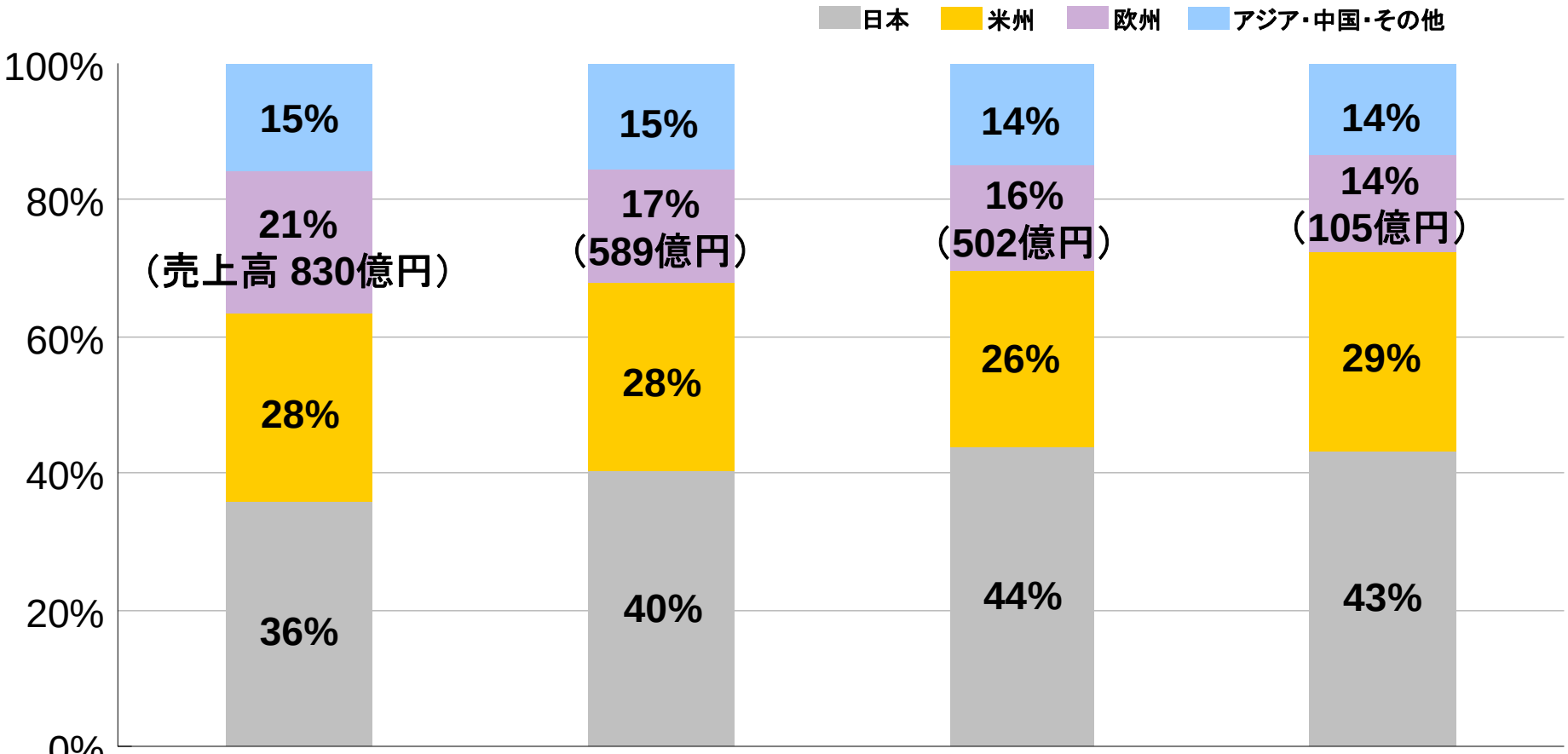
2

2. 2013年3月期の取り組み

地域別売上高構成比

JVC KENWOOD

■ 構造改革、円高、国内の売上拡大にともない、欧州売上比率は縮小
■ 対ユーロでの為替感応度は前期△3億円から当期△2億円に縮小

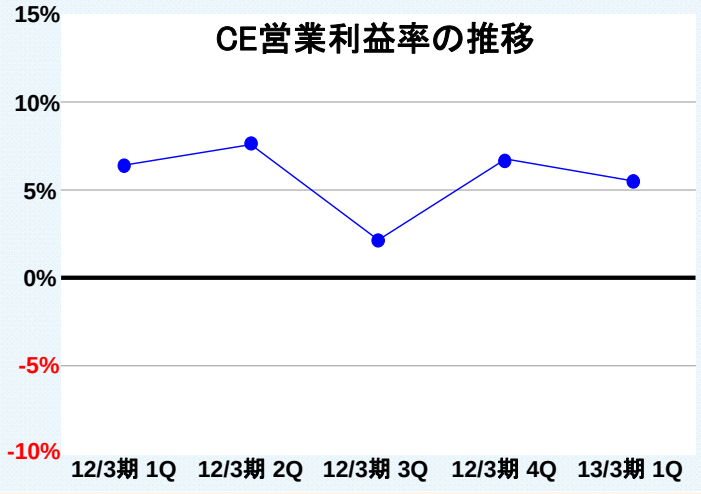


	’10/3期	’11/3期	’12/3期	’13/3期 1Q
USドル	93円	86円	79円	80円
ユーロ	131円	113円	109円	103円

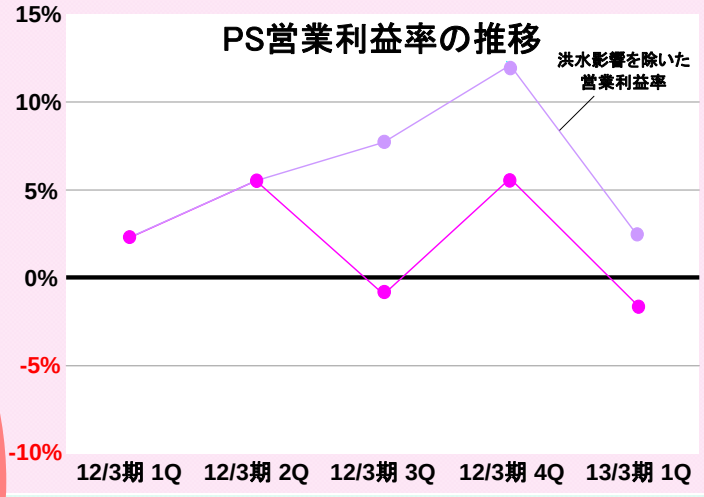
2013年3月期　第1四半期　セグメント別売上構成比

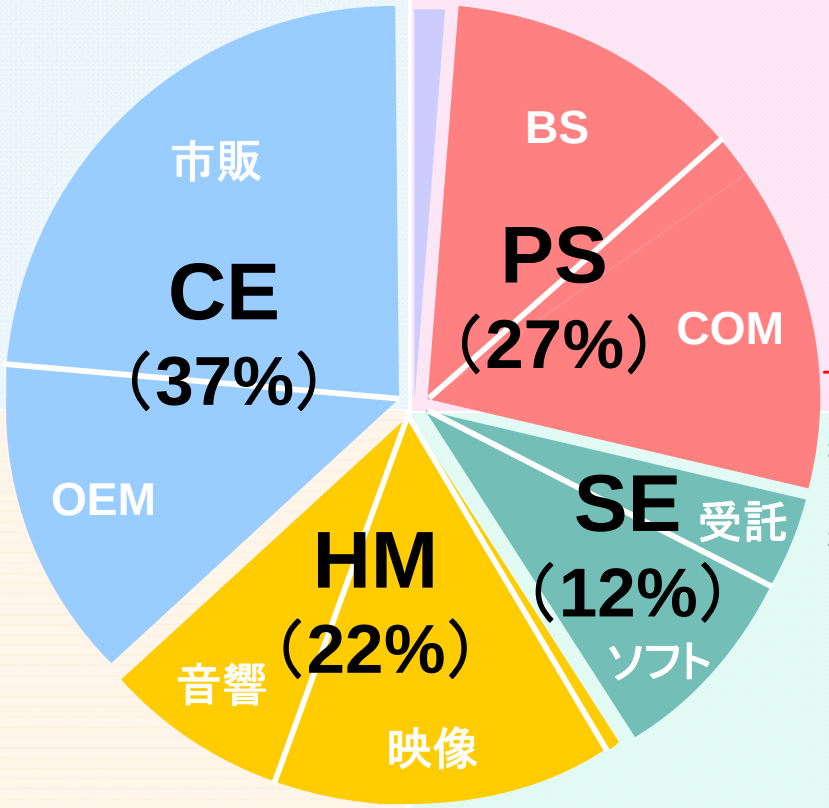
JVC KENWOOD

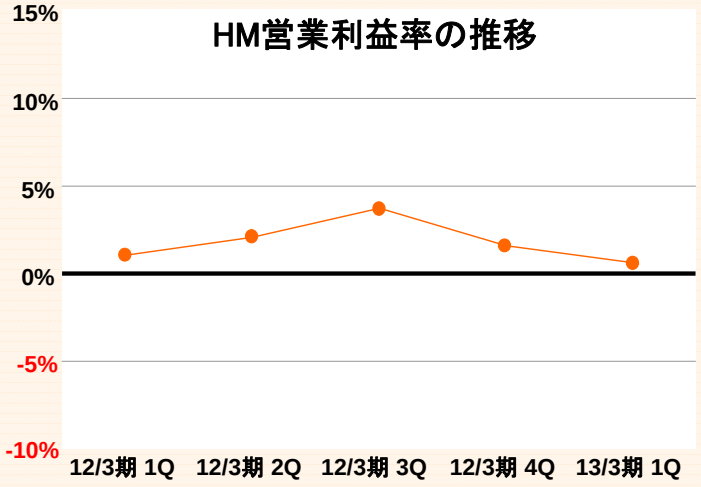
CE
・OEM、国内市販が堅調、エコカー補助終了後は市販で需要取り込み

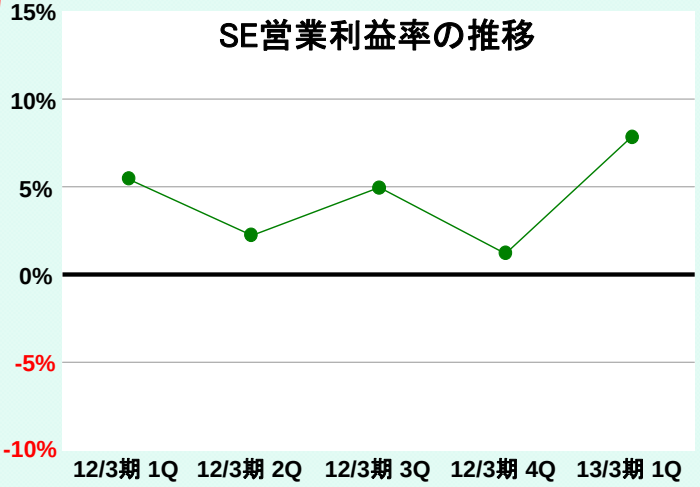


PS
・COMは高収益・安定成長、独自デジタル規格公開でチャンス拡大
・BSも洪水影響を除けば黒字体質継続









HM
・「集中と選択」終了、商品構成改革により黒字定着

SE
・ヒット作の連打で好調
損益改善効果もあり、収益事業に転換

2013年3月期　通期業績予想

JVC KENWOOD

■ 4月27日公表の通期業績予想は据え置き

■ 為替レートは、

・ 2Q・・・米ドル：79円、ユーロ：95円
・ 下期・・・米ドル：79円、ユーロ：103円　を想定

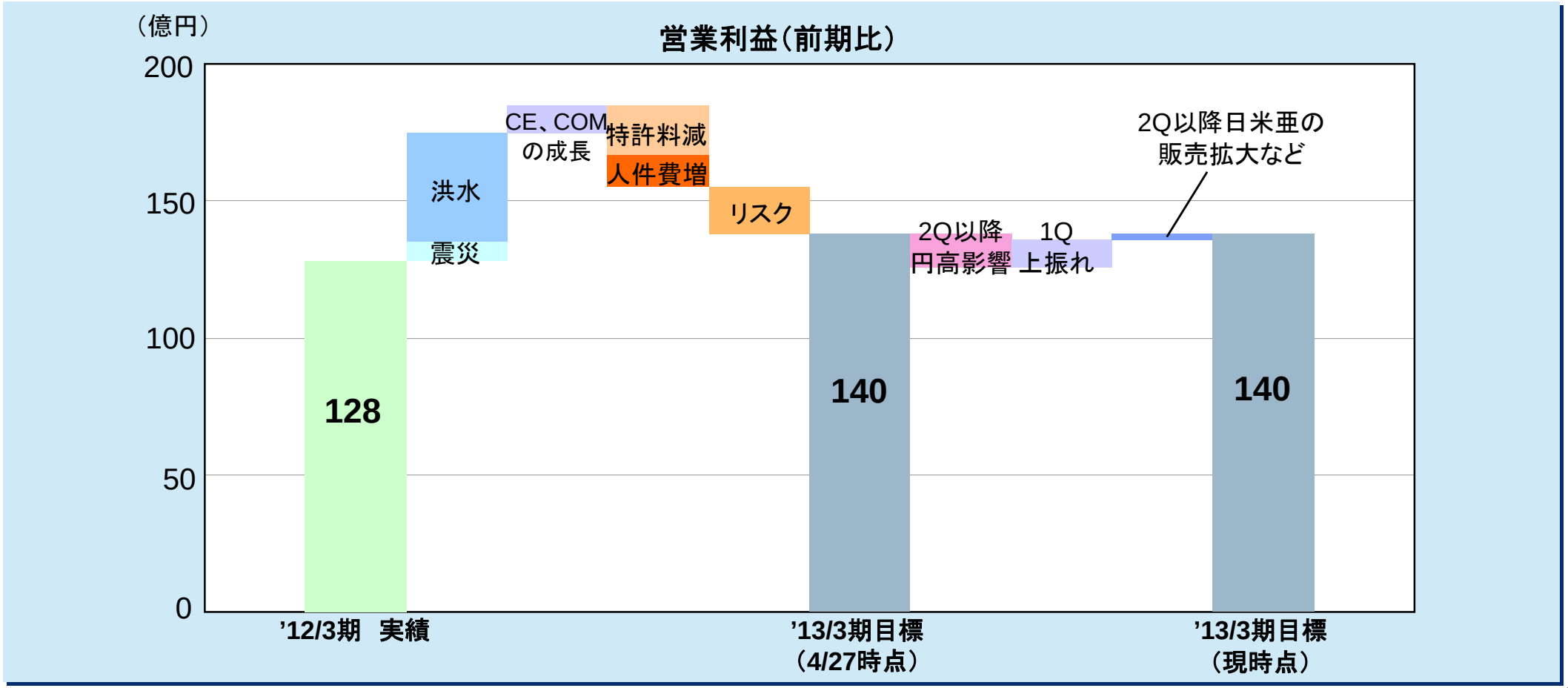
（億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	為　替 ※
’13/3期	3,400	140	90	70	
’12/3期	3,209	128	64	60	USドル：約 79 円 ユーロ ：約 109 円
前期比	+191	+12	+26	+10	

※通期為替レートは、4月～3月のレートを平均した参考値です。

2013年3月期　通期業績予想

- 1Qは、想定レート以上の対ユーロ円高が業績予想に対するマイナス要因となったが、各事業が収益力を高めた効果により、損益は想定以上
- 2Q以降は、欧州経済、国内自動車販売動向、一層の円高がリスク要因だが、対ユーロ為替感応度の縮小、BSの挽回策、日米亜の販売拡大をはかる
- 手元資金を用いて、「戦略投資」の継続など、機動的な投資活動を推進

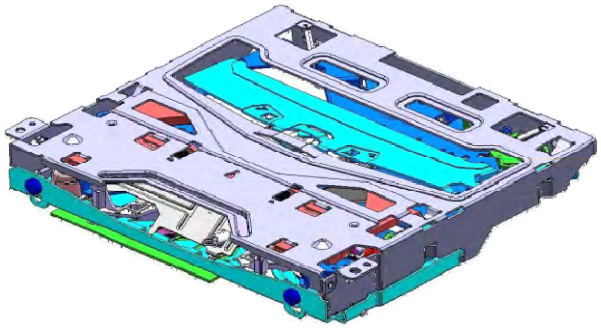


カーエレクトロニクス事業

① OEM分野の拡大



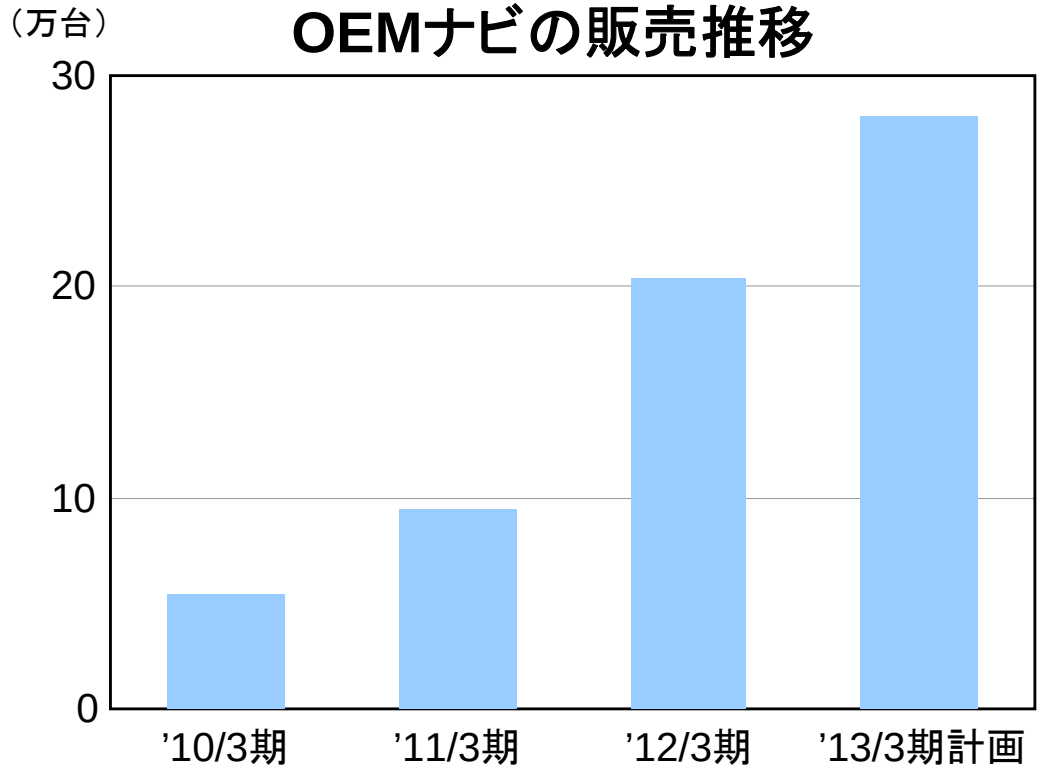
DOP（ディーラーオプション）ナビ

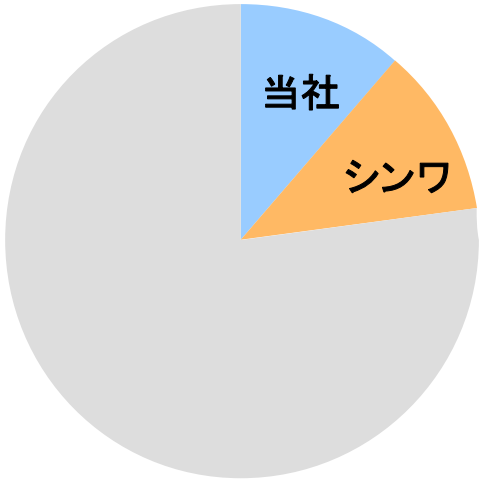


戦略メカ

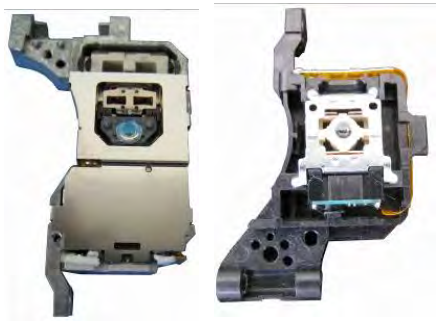


CD／DVDメカ





※ 自社使用分を含む



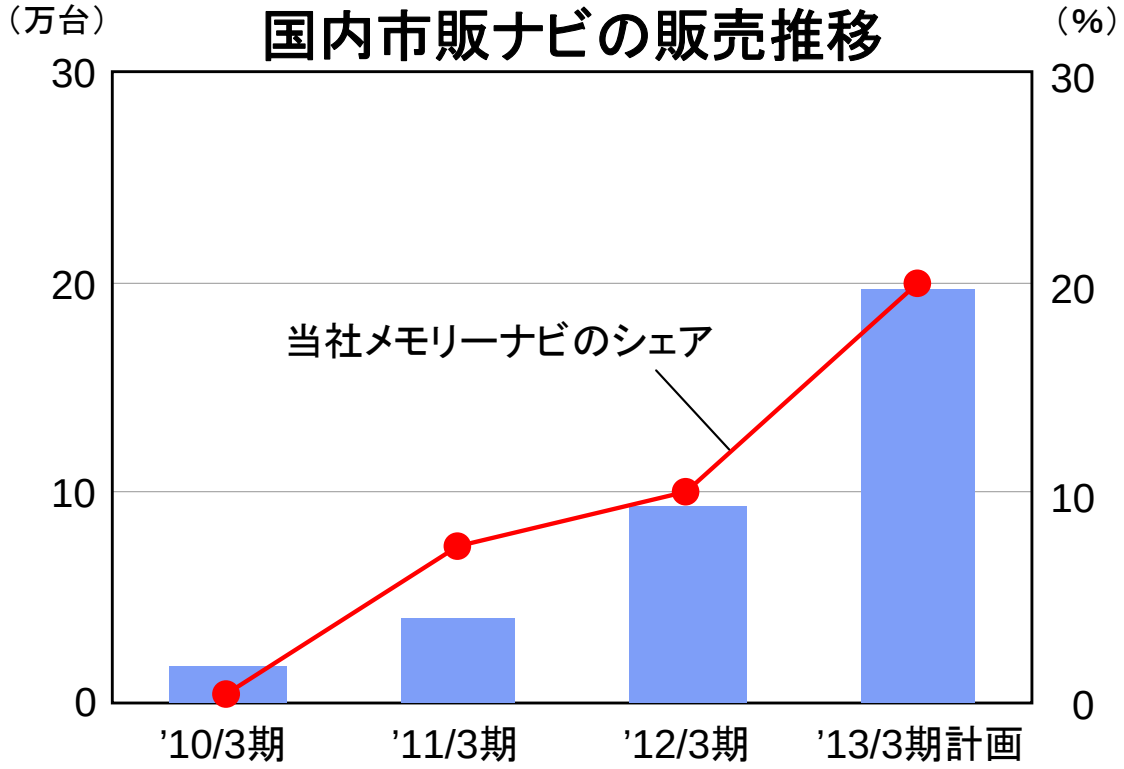
光ピックアップ

② 市販分野の拡大

・国内での「彩速ナビ」のラインアップ拡充

2010年･･･1モデル
2011年･･･4モデル
2012年･･･5モデル





・海外でのスマホ連携ナビの拡充

「MirrorLink™」
- ナビゲーションソフト
- 音楽再生
- 動画・静止画 再生

などの機能をヘッドユニットで実現







カーエレクトロニクス事業の成長戦略

JVC KENWOOD

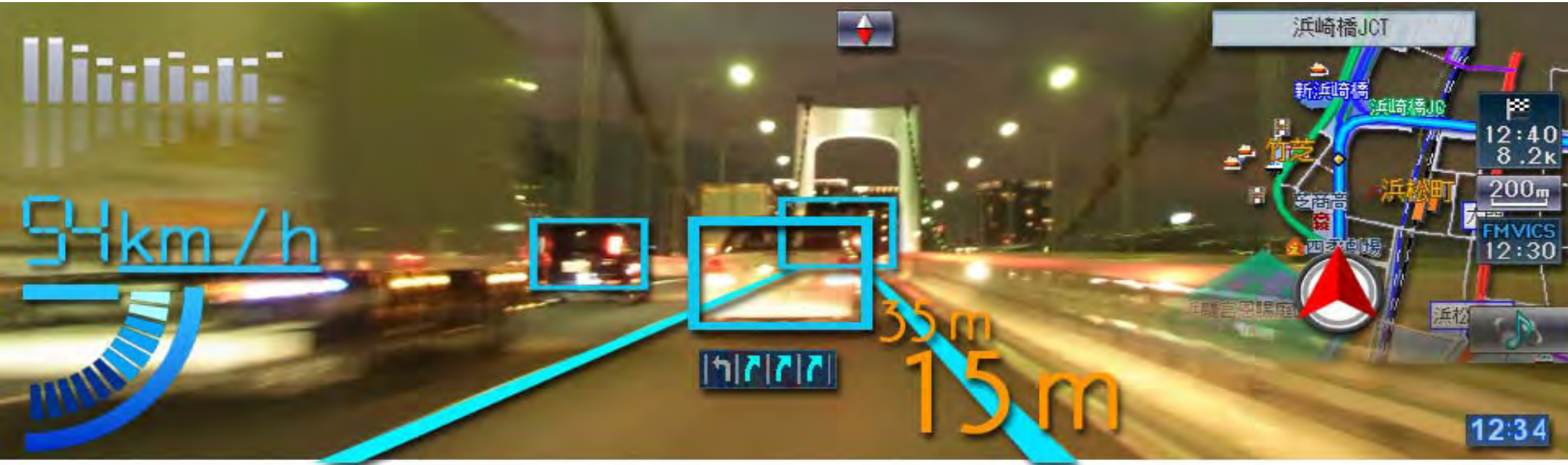
車内のデバイスとの連携と車外のインターネットコンテンツの利用を両立



ヘッドアップディスプレイ

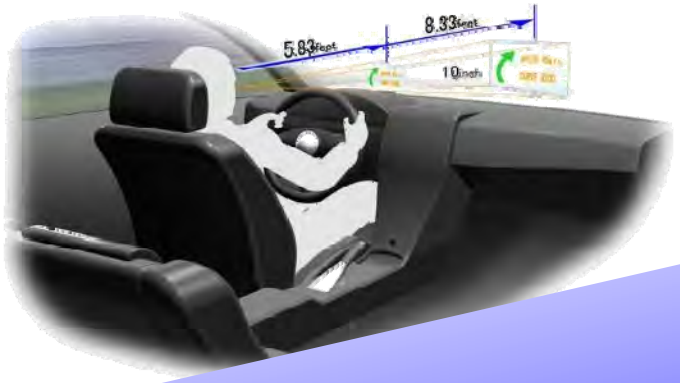
JVC KENWOOD

安全運転支援とより良いカーエンタテインメント体験の両立

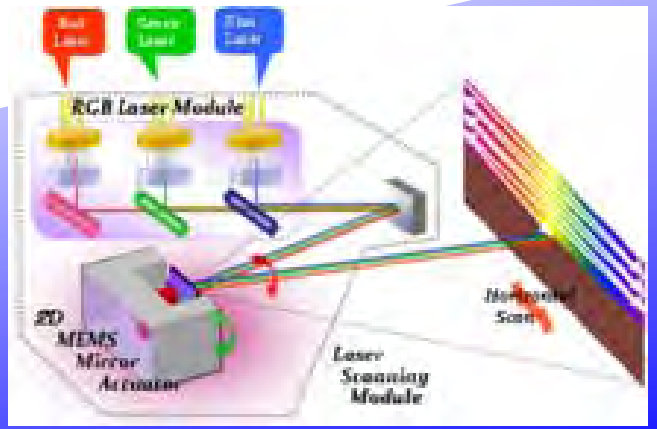


Vehicle Speed　　Augment Reality Scouter　　Navigation Information

■ LCOS-ヘッドアップディスプレイ



■ LSM-ヘッドアップディスプレイ



Fun to Drive

業務用システム事業

① 無線機器事業の成長

・アナログからデジタルへの更新需要、
新規需要の獲得



NEXEDGEシリーズ

・NEXEDGEを全世界に展開しながら
各国独自の新デジタル方式にも対応



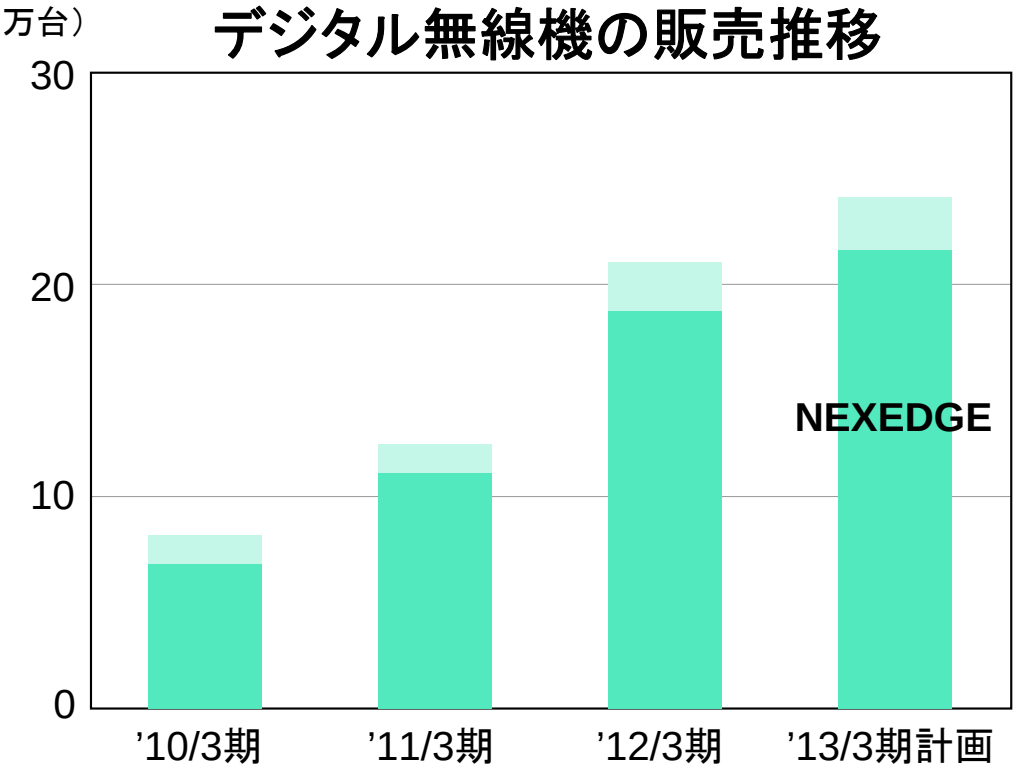
P25

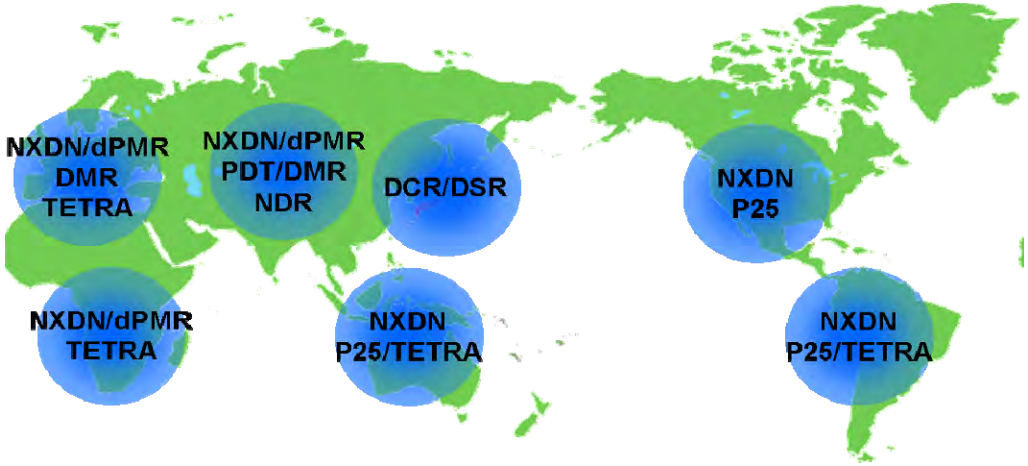


PDT



DCR





② ビジネスソリューション事業の成長

- インフラシステムソリューションの拡大 ― セキュリティ、プロオーディオ
- メディアシステムソリューションの拡大 ― 業務用ビデオカメラ、モニター

インフラシステムソリューション

安心



非常業務放送設備

非常／業務放送システム





無線機器



緊急地震放送端末



メディアシステムソリューション

感動

ProHD





欧米シェア拡大

新興市場拡販













ホーム＆モバイルエレクトロニクス事業

2013年3月期の取り組み　ホーム&モバイルエレクトロニクス事業

① 映像事業の成長

- 「想い出を残す」ことから、人生そのものを「見守る」ことに事業領域を拡大
- 併せて、「動画コミュニケーションの世界」で、様々な楽しさを提供していく

■ Wi-Fi技術による、スマートフォン／タブレットとの連携強化

■ 新シリーズ“ADIXXION”による撮影フィールドの拡大

■ 次世代の映像インフラ“4K2K”への取り組み

■ 新提案AVプロジェクター



4K2K対応プロジェクター



Wi-Fi機能搭載カムコーダー





小型・軽量スポーツカム「ADIXXION」

2013年3月期の取り組み　ホーム&モバイルエレクトロニクス事業

② 音響事業の成長



室内家具としての機能性も兼ね備えた
新コンセプト　ファニチャーオーディオ

■ ホームオーディオ

- 既存型マイクロ、既存型ラジカセの採算性の改善
- ネットワーク関連商品への取り組み
- デザイン特化型商品の具現化

■ AVアクセサリー

- 国内向け中高級価格帯強化
- 海外向け中級価格帯とリモートモデルの強化







業界初、イオナイザー搭載
iPod対応オーディオシステム

■ 次世代商品の開発





エンタテインメント事業

2013年3月期の取り組み　エンタテインメント事業

1Qヒット作品

SMAP
「さかさまの空」　NOW ON SALE

NHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」主題歌

4月よりスタートした朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」は、掘北真希演じる町医者が戦後の激動の中を生き抜いていくストーリー。前を向いて立ち上がる女性を応援する内容の楽曲として9月まで朝のひと時を飾る。

家入　レオ
「Shine」　NOW ON SALE

フジテレビ系ドラマ「カエルの王女さま」主題歌

デビュー曲「サブリナ」に続く2ndシングル！
同曲は2012年上半期　USEN【J-POP総合ランキング】で第1位を獲得。更にレコチョク2012年上半期新人ランキングにて【ダウンロード(シングル)部門】【着うた®部門】の2部門でも第1位を獲得！

関ジャニ∞
「愛でした。」　NOW ON SALE

TBS系 木曜ドラマ9「パパドル！」主題歌

錦戸亮主演TBS系 木曜ドラマ9「パパドル！」主題歌の「愛でした。」は、孤独や不安に埋もれる日々に光りを与えてくれた人への揺るぎない“愛”を綴った楽曲。

ミュージッククリップでは、悩みや葛藤を抱いたメンバーが、互いの友情を確かめ合ううち、次第に明るい世界に包まれていく内容に。

2013年3月期の取り組み　エンタテインメント事業

2Qリリース作品

桑田佳祐 Special Best Album 「I LOVE YOU - now & forever -」

NOW ON SALE

瑞々しい新曲と、永遠に色褪せない名曲の数々。
最新曲、名曲、そしてついにCD化が実現したレア楽曲まで
桑田佳祐の歌が満載の音楽宝箱。
“ベスト盤”という言葉ではもはや語り尽くせない、
"スペシャル・ベスト・アルバム" 誕生。

SMAP 「Moment」

8月1日発売

TBSロンドンオリンピック2012テーマソング

本作の作詞作曲は、サカナクションのボーカル・山口一郎。
「Moment」は、この夏を飾るのに相応しい高揚感あるリズムに、栄光の一瞬を勝ち取るまでの苦難や葛藤をポエトリーに描き出した山口一郎らしい作品。SMAPリーダー・中居正広がメインキャスターを務めるTBS ロンドンオリンピック2012テーマソング。5大都市ドームツアーも8月23日よりスタート!

エイトレンジャー 「ER」

NOW ON SALE

映画「エイトレンジャー」主題歌

8周年第2弾シングル「ER」は関ジャニ∞主演の2012年7月28日公開映画「エイトレンジャー」主題歌。役柄であるエイトレンジャー名義でのシングルリリース。
映画の世界観と重なるこの曲は、閉塞感や鬱屈した感情を打破して自らを奮い立たせ、理想を追い求めていく楽曲。

JVC KENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。